

■経済学部

【教育課程・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

一橋大学経済学部は、経済・社会を理解するための経済学の基礎的な知識や分析技術とそれらを経済学の専門的な分野で応用する能力を備え、現実の経済・社会の課題を設定し解決に導く能力を備えた人材を養成します。このため、以下「1. 教育課程編成の考え方」に基づき、「2. 学修内容及び学修方法」、「3. 学修成果の到達目標」、「4. 学修成果の評価方法」により教育課程を実施します。

1. 教育課程編成の考え方

- (1) 「全学共通教育科目」及び他学部の「学部教育科目」について所定の単位数を卒業要件として設定することで経済学部の教育課程に組み入れて教養としての幅広い知識を学びます。また、「英語コミュニケーションスキル科目（「PACE I・II」）を含めた「外国語科目」を教育課程全般にわたり必要な知識として必修科目に設定し、グローバルなコミュニケーション能力の向上を図ります。数理・情報科目の「数学科目」に必修科目を設定して経済学の知識を修得するうえで必須である数学の知識を修得します。
- (2) 「学部教育科目」では、以下のように科目を配置します。
 - ・1年次配当の「学部導入科目」では、個人の最適化や市場経済など経済学の基本的な考え方を学ぶ「経済学入門」、経済データを要約する統計手法を学ぶ「統計学入門」、社会経済史の基礎的な知識や視点を学ぶ「経済史入門」を必修として学びます。
 - ・2年次配当の「学部基礎科目」では、専門的な科目への橋渡しとして「基礎ミクロ経済学」、「基礎マクロ経済学」、「基礎計量経済学」とそれらの修得に必要な基礎レベルの知識や技術を学びます。
 - ・3・4年次配当の「学部発展科目」では、経済理論、社会経済システム、経済統計、情報数理、経済政策、公共経済、環境・技術、現代経済、地域経済、経済史、経済文化情報等の分野での専門的な科目を豊富に提供します。
- (3) 3・4年次必修の「ゼミナール」では、担当教員の専門分野に基づいたさらに専門性の高い学修を行います。そのうえで、自らが問題意識を持って課題を設定し、その解決を図る学士論文を執筆します。

2. 学修内容及び学修方法

経済学部では、経済学の基礎的な知識と分析技術及びそれらを経済学の専門的な分野に応用する能力を備え、現実の経済・社会の課題を設定し解決に導く能力を備えた人材を養成するため、以下の点を強調した学修内容及び学修方法を実践します。第一に、経済学の膨大な蓄積と最新の知見を、段階を追って体系的に習得させます。このためには、「学部導入科目」と全学共通教育科目の「数学科目」、「学部基礎科目」、「学部発展科目」と着実に履修を進めることが求められます。第二に、社会科学をはじめとした学術にお

ける幅広い知識と教養を経済学の知識に融合させます。このためには、他学部が開講する「学部教育科目」や「全学共通教育科目」等への積極的な参加が求められます。第三に、全学共通教育科目の「英語コミュニケーションスキル科目（「PACE I・II」）」やグローバル・ポートフォリオへの参加により養成されるグローバルなコミュニケーション能力を経済学の知識に融合させます。第四に、本学の伝統であるゼミナールを核とする少数精鋭教育を通じて、課題設定と解決能力を養成します。なお、研究活動上の不正行為を防止するため、全学生を対象として、研究倫理教育を実施します。

学生が各自の目標に向かって適切な履修計画を立てることができるように、履修モデル及び全ての授業科目の概要、到達目標、内容及び評価方法を明記したシラバスを示します。また、授業の事前及び事後の学修指示や参考文献を示すなど、学生の主体的な学修を支援します。

3. 学修成果の到達目標

経済学部では、現実の経済・社会の課題を設定し解決に導く能力を備え、ビジネスや公共政策の現場で活躍する人材の養成を目指します。そのため、本学部での学修を通じ、ディプロマ・ポリシーに掲げる経済学の知識と分析技術を習得させ、それらを学術における幅広い知識と教養及びグローバルなコミュニケーション能力と融合させて他者と協働し、ビジネス・公共政策等の現場で実践できるようになることを到達目標とします。

4. 学修成果の評価方法

各科目の学修成果は、科目の特性等に応じて定期試験、レポート、小テストや発表を含む平常点などの方法で評価することとし、具体的な評価の方法はシラバスにおいて科目ごとに明示します。

学士論文では、経済学の知識と分析技術を基に各自が設定した課題が適切であるか、提示された解決策が説得力を持って議論されているかという観点から評価します。